



第9回技術WGでの指摘事項とその対応案

2025年2月7日

環境省環境再生・資源循環局

中間貯蔵施設における除去土壌等の減容化技術等検討WG(第10回)

主な指摘事項と対応案①

< 最終処分に関する検討の進め方について >

	委員の指摘事項	対応方針案（当日回答を含む）
1	安定化技術の考え方について、安定化体の溶出抑制についても記載すべきではないか。	資料2に、溶出低減の観点も踏まえる旨を追記した。
2	最終処分の安全評価について、放射性セシウムをターゲットにするということを記載しておいた方が良い。	資料2に、放射線安全評価については、これまでのセシウム以外の放射性核種の調査結果等を踏まえ、対象とする核種は放射性セシウムを基本とする旨を記載した。
3	最終処分における構造の中で、覆土に対する安定性についての記載も必要ではないか。	資料2に、覆土等についての役割や維持管理における確認について記載した。

< 最終処分に向けた減容技術等の評価について >

	委員の指摘事項	対応方針案（当日回答を含む）
4	湿式分級処理に使用する水量について、通常分級の水量が示されているが、高度分級を行った場合の水量はどのように整理されているか。	参考資料3に、湿式高度分級における使用水量の情報を追記した。
5	セメント固型化とガラス固型化などで、コストの数字が大きく異なる部分があるが、技術的な課題などがあれば、見える化した方が良い。	ガラス固型化に関するコストの幅が大きくなっていることについては、処理量が少ない場合に、処理効率が大きく低下すること等を考慮したものであり、技術的な課題によるものではない。

主な指摘事項と対応案②

< 飛灰洗浄・吸着・安定化技術実証事業の実施状況について >

	委員の指摘事項	対応方針案（当日回答を含む）
6	追加ラボ試験では何が実施されていて、どういった結果が得られているのか。	参考資料4に、追加ラボ試験の実施内容と結果を追記した。
7	その2事業者、その3事業者の、それぞれゼオライト焼成やガラス固型化は高温処理だが、オフガス処理や収支の確認は行っているのか。	参考資料3に、実証事業での放射性セシウムのガス側への移行や排ガス処理について追記した。

< 複数の最終処分シナリオの検討に当たっての考え方について >

	委員の指摘事項	対応方針案（当日回答を含む）
8	最終処分に要する時間的な話として、処理期間や一日当たりの処理量などについて考慮する必要がある。	資料3に、一定の処理期間を想定した場合の、各減容処理技術の必要処理能力の見込み（試算）を記載した。
9	二次廃棄物についても情報を整理しておく方が良い。また、処理施設の解体に伴う廃棄物といった観点も必要になっているのではないか。	資料3に、解体時に発生するものも含め、二次廃棄物についての情報を記載した。
10	再生利用をしないと広大な処分場が必要になることを示すために、再生利用しなかった場合の絵姿も記載すると良い。	資料3に、再生利用量の情報や、再生利用しなかった場合の最終処分量の増加量を記載した。